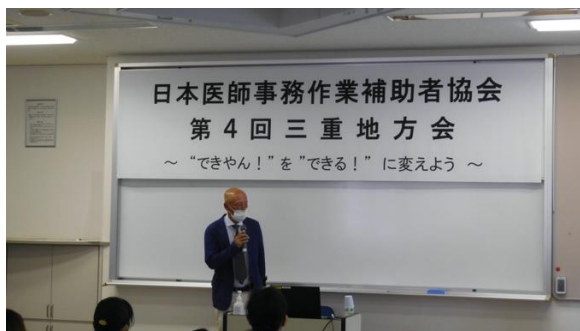


#### 第4回三重地方会(テーマ:『“できやん!”を“できる!”に変えよう』2023.9.23)活動報告

当日は、現地開催でしたが、近隣病院から県外(遠くは九州)までの実務者等を含む54名の参加がありました。

当院の下村 誠院長の挨拶から始まり、以下のとおり進められました。

最初に、当院消化器外科・がん診療部長の湯浅浩行先生により外科領域に関する基礎知識をテーマにして、『大腸がんについて ～検診、外科治療から術後まで～』と題してスライドと動画を用いた講演をしていただきました。昨年の部位別罹患数で、男性は10人に1人、女性は13人に1人罹患している大腸がんの話はとても興味深く、日頃の食生活や定期的な検診が大切であることを再認識させられました。また、スライドの最後に「がん治療=NCD 入力業務」であるという私たち医師事務作業補助者との関わりの話もしていただきました。普段多忙な医師から労いのお言葉をかけていただき、自身のモチベーション向上にもなりました。



次に、医療法人財団白梅会の小林利彦先生に『新人医師事務作業補助者の育て方～教育方針の確立とモチベーションの向上に向けた働きかけ～』についてお話いただきました。医師事務作業補助者のこれまで、そしてこれからの10年後を見据えた分析のお話の中で、「働きがい」は働きやすさと仕事へのやりがいだということを学びました。今後の医師事務作業補助者のやるべきことや進んでいくべき道、更には現状より一層ステップアップした業務を行わないといけないことを考えさせられる講義でした。



また、後半には、まずはアイスブレイクで緊張をほぐした後、各自の自己紹介から始め、その後は各グループが業務における書類の大変さや各病院の業務内容や雇用形態の違いなどについてディスカッションを行いました。今回は経験年数別でグループ分けをしたこともあり、各グループが共通の話題で終了時間を過ぎても尽きることなく話に盛り上がりを見せていました。



今回はコロナ禍により3年振りの対面形式での開催となりましたが、最初から最後まで参加者が笑顔で開催することができ、今後もこうした研修会を定期的で開催していくことで、医師事務作業補助者のモチベーション向上、更には業務の拡大やレベルアップに繋がるのではないかと考えられました。

最後に・・・仲間同士の対面での地方会は本当に最高です！

三重中央医療センター 宮本由季